

## 3 . 各部門の活動状況

### 3 . 1 教育活動

#### 3 . 1 . 1 学生の受入状況

##### 【本科】

##### ( 1 ) 学生募集方法

本科の学生募集の方法は、昨年度と変わっておらず、推薦入試と学力入試の2種類の選抜方式で、5学科（機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、生物応用化学科、材料工学科）とも募集人員は40名である。その内、推薦入試の募集人員は各学科とも35%程度である。推薦入試における推薦基準および選抜方法、また、学力入試における出願資格および選抜方法も昨年度と同様である。ただし、推薦入試の内申点について、昨年度は中学校の絶対評価による成績評価制度の導入にともない、中学校格差が生じることを考慮して、2年生と3年生の平均を用いたが、本年度は、従来からの中学3年生の12月現在の成績を用いる方法とした。今後、絶対評価の中学校格差の調査・分析を継続的に行っていく必要がある。また、3年前から導入した学力入試の傾斜配点についてもその効果を分析・評価する必要がある。

##### ( 2 ) 入試状況

表3.1.1に過去5年間の本科各学科別の入学志願者数、合格者数および入学者数を示した。

平成16年度入学(入試は平成15年度に実施)の状況に関しては次のことが読み取れる。

- 1) 志願者総数が262名であり、前年の350名と比べて大きく減少した。  
(愛媛県内の中学3年生数は、平成14年度が16,015名で、平成15年度は15,484名と約530名程度の減少である。)
- 2) 学科別志願者数については、機械工学科と電気情報工学科は昨年とほぼ同程度であるが、他の3学科(電子制御工学科、生物応用化学科、材料工学科)では激減している。中でも電子制御工学科の受験倍率は1.0倍、材料工学科では0.8倍である(いずれも第一志望による)。
- 3) 材料工学科の推薦入試の志願者数は増加せず、他学科のそれと比べてかなり少ない。志願者の出身地分布から、本年度の志願者数の減少は、新居浜市および今治地区からの受験者がかなり減少したことによる。その原因については不明であるが、本校のイメージアップ(留年・退学者数の減少、卒業後の進路先の開拓、魅力ある学生生活など)を行うとともに、今以上のPR活動を行い、早急な志願者増員対策を講じる必要がある。

表3.1.1 本科各学科別および入学年度別の入学志願者数、入学試験合格者数および  
入学者数

学科	入学年度	志願者数 (推薦)	倍率	合格者数 (推薦)	入学者数
機械工学科	平成12年度	77(5)	1.9	41(5)	40
	平成13年度	79(11)	2	41(11)	41
	平成14年度	83(14)	2.1	41(13)	40
	平成15年度	77(14)	1.9	42(14)	42
	平成16年度	69(12)	1.7	42(12)	42
電気工学科 (電気情報工学科)	平成12年度	76(15)	1.9	42(14)	42
	平成13年度	78(15)	2	41(9)	40
	平成14年度	56(16)	1.4	40(14)	40
	平成15年度	73(16)	1.8	41(14)	41
	平成16年度	71(21)	1.8	42(16)	42
電子制御工学科	平成12年度	61(17)	1.5	42(14)	42
	平成13年度	79(27)	2	41(16)	41
	平成14年度	58(17)	1.5	41(16)	39
	平成15年度	69(24)	1.7	42(14)	40
	平成16年度	41(19)	1	42(15)	42
生物応用化学科	平成12年度	81(17)	2	42(14)	42
	平成13年度	107(22)	2.7	42(16)	42
	平成14年度	68(22)	1.7	41(16)	41
	平成15年度	81(15)	2	42(15)	40
	平成16年度	51(17)	1.3	41(15)	41
材料工学科	平成12年度	55(3)	1.4	40(3)	40
	平成13年度	48(3)	1.2	40(3)	40
	平成14年度	60(4)	1.5	40(4)	40
	平成15年度	50(4)	1.3	41(4)	41
	平成16年度	30(4)	0.8	42(4)	41

( )は女子で内数

### (3) 志願者増員対策

本年度、本校では入試志願者増員のために次のPR活動を行なった。

- 1) 本校説明用のパンフレット「はばたけ未来へ」を中学3年生一人ひとりに配布  
(県下の中学校、香川県・徳島県の一部の中学校)
- 2) 中学校訪問・学校説明会への参加
- 3) 校内見学会・夏季体験学習・体験講座の実施
- 4) 県下の中学校との教育懇談会の開催(5ヶ所)

また、平成16年3月～4月にかけて、受験生が大幅に減少した新居浜地区、今治地区をはじめ四国中央・東予・丹原・小松・松山・大洲・南予の一部の中学校を訪問した(入

試の状況、学校概況および出身在校生の状況を説明し併せて今年受験した生徒のレベル、合格者の習熟度等を伺った。

さらに、平成16年度には次のようなPR活動を考えている。

- 1) 各中学校用に「学校案内CD」を作成し、配布する。(250枚作成：愛媛県全校、香川県・徳島県・岡山県・広島県の一部の中学校)
- 2) 学生募集ポスターを作成し、各中学校に配布する。
- 3) 中学校主催の進路説明会用に5～6分程度のCDを作成し、学校案内と併せてビジュアル的に説明できるようにする。
- 4) 岡山、広島地区の中学校へのPRを行う(中学校訪問先の拡大)。

表3.1.2は、過去4年間の校内見学会および夏季体験学習に参加した中学生数を示した。平成15年度の参加者数はいずれも僅かであるが、平成14年度より増加している。また、表中には本校を入学志願した人数も示した。平成14年度までは、見学会や体験学習の参加人数に応じて入学志願者数も推移しているが、平成15年度にはその相関が見られない。これは、体験学習や見学会へ参加した生徒の入学志願率が減少していることを示している。この体験学習や学校見学会に参加する中学生の多くは、本校の受験を選択肢の1つとして多い。したがって、今後、体験学習のテーマや内容はもちろん実施形態を含めた見直しが必要である。また、見学会においてもその方法を改善する必要がある。さらに、出前講座や各種イベントへのテーマ参加などもPR活動の観点から積極的に実施していくべきと思われる。

表3.1.2 過去4年間に開催した学校見学会並びに体験学習への参加者数

実施年度	学校見学会 (人)	体験学習 (人)	入学志願者数 (人)
平成12年度	215	741	368
平成13年度	110	596	325
平成14年度	170	616	350
平成15年度	181	631	262

#### (4) 編入学生の募集方法と入学状況

表3.1.3に過去4年間の編入学生の入学状況を示した。平成15年度に半減していた入学志願者数は、平成16年度(入試は平成15年度に実施)には回復した。また、合格者数も10名であり、過去4年間で最高となっている。さらに、平成16年度には2次募集(12月)を行ったこともあり、普通高校からの入学者が2名となった(平成16年度入学者数：4名)。

例年、入学辞退者が多いが、これは、入学辞退の連絡時期を考慮すると、他高専の編入試験や大学(工業高校の場合は推薦)入試の掛け持ち受験のためと考えられる。第一志望として本校を受験してもらうためには、入学後はもちろん、合格者に対する入学前からの学習支援や進路実績(就職先・進学先)をあげることが必要と思われる。

表から、次の2つの問題点が読み取れる。1つは、平成16年度の機械工学科の受験者は5名であったが、全員が不合格である。試験問題のレベル・内容の見直しを行うとともに、本校が期待している受験者レベルを含めたPR活動を行う必要がある。他の1つは、材料工学科の志願者が毎年少ないことである。近隣の工業高校に類似の学科がないためと思われるが、PR方法の工夫や普通高校からの志願者を増やすなどの対策が必要と思われる。

表3.1.3 過去3年間の編入学生の入学状況

入学年度	機械工学科			電気工学科			電子制御工学科			生物応用化学科			材料工学科			全学(計)		
	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学	志願	合格	入学
13年度	7	1	0	6	3	3	7	2	1	0	0	0	1	0	0	21	6	4
14年度	9	1	0	5	3	0	6	1	1	1	0	0	1	0	0	22	5	1
15年度	2	1	0	2	1	0	3	1	1	3	0	0	1	0	0	11	3	1
16年度	5	0	0	7	5	3	4	1	0	5	3	1	1	1	0	22	10	4

(5) 外国人留学生の受け入れ状況

表3.1.4に過去5年間の外国人留学生の受け入れ状況を示した。平成15年度には4名の留学生を受け入れ、平成16年4月には5名の留学生(1名は私費留学)を受け入れた。以前は各学年に1~2名であった留学生もこのところ増加しており、平成16年度に本校に在籍する留学生は11名である。また、留学生の受け入れ学科の偏り(電気工学科と電子制御工学科が多い)もかなり解消され、平成16年度にはすべての学科に留学生が在籍している状況である。

留学生の学習や生活支援のために、本校では、各留学生に1名の留学生指導教員と学生のチューター(5年生は除く)をおいて対応している。また、平成15年度からは、留学生交流室を設けたり、学内組織としての留学生指導班を編成するなど、留学生のための支援体制もかなり整ってきた。さらに、女子寮が完成したことにより、女子留学生の受け入れも容易となった。今後、留学生の支援体制をより一層充実させていくとともに、留学生が日本人学生や地域の人との交流をより深めるためのイベントなども増やしていく必要があると思われる。

表3.1.4 過去5年間の外国人留学生の受け入れ状況

年度	機械工学科	電気工学科	電子制御工学科	生物応用化学科	材料工学科
12年度		ケア 1名	スレーシア 1名		
13年度			スリランカ 1名		
14年度		コロンビア 1名	モンゴル 1名		
15年度		イソ 1名	モンゴル 1名 スレーシア 1名		タイ 1名
16年度	スレーシア 1名	ベトナム 1名	スレーシア 1名 ベトナム 1名	中国 1名	

【専攻科】

(1) 専攻科生の入学状況

表3.1.5の専攻科入学状況および表3.1.6の専攻科入学試験の合格者における推薦選抜および学力選抜試験の内訳より、

1) 志願者数は昨年度より7名減少している。その理由は、他高専に専攻科が設置され、こと、大学編入学者の併願出願者が減少したことによる。

2) 入学者数は電子工学専攻は2名減少したが、生産工学専攻が4名の増加により、26名から28名へ2名増加している。その理由は、生産工学専攻生物応用化学コースの専攻分離や“生物応用化学プログラム”のJABEE受審によるものと思われる。

従って、専攻科への進学が大学への編入学に比べてどの点において有利であり魅力的であるかを本科生にPRし、理解させることが必要かを暗示した結果と推定される。

表3.1.5 専攻科入学状況

入学年度	生産工学専攻		電子工学専攻		合計	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
平成12年度	23(4)	18(2)	20(1)	15(1)	43(5)	33(3)
平成13年度	17(3)	15(3)	21(1)	15(1)	38(4)	30(4)
平成14年度	23(4)	15(2)	18(0)	11(0)	41(4)	26(2)
平成15年度	22(1)	13(1)	28(0)	13(0)	50(1)	26(1)
平成16年度	19(2)	17(2)	24	11	43(2)	28(2)

( )は女子で内数

表3.1.6 入学試験の合格者における推薦選抜と学力試験選抜の内訳

	入学年度	定員	志願者		合格者		入学者
			推薦	学力	推薦	学力	
生産工学専攻	平成12年度	12	4	19	4	17	18
	平成13年度	12	10	7	10	6	15
	平成14年度	12	4	19	4	13	15
	平成15年度	12	7	15	7	7	13
	平成16年度	12	5	14	5	12	17
電子工学専攻	平成12年度	8	9	13	9	7	15
	平成13年度	8	2	19	2	15	15
	平成14年度	8	7	11	7	7	11
	平成15年度	8	9	19	8	6	13
	平成16年度	8	5	19	5	6	11

## (2) 専攻科志願者の増員対策

専攻科志願者数を増やすためには、まず、専攻科を本科生だけでなく、地域の企業や市民の方々に積極的にPRを実施し、専攻科を知って頂く必要がある。

そこで、PR用の資料として「専攻科学生募集のポスター」および「専攻科学生募集要項」の全面改定を実施し、作成したポスターを持って市町村役場、県内の各種研究機関へ出かけ、掲示板への依頼と専攻科のPRを実施した。さらに、専攻科生の研究活動を地域の企業の方々に知って頂くため、本校高度技術教育研究センター主催の工業技術懇談会においてPRを実施した。一方、学内において専攻科のPR用パネルを作成し、図書館したロビーへの掲示や3年生の特別教育活動における専攻科のPRを実施した。

その結果、入学者数は2名増加したが、社会人特別選抜と他高専からの入学者数は、表3.1.7より増加していない。

そこで、社会人特別選抜の推薦資格の見直し、試験日の変更を行い、社会人の方々が受

験し易い“平成17年度専攻科学生募集要項”を作成した。

一方、全国の高専に専攻科が49校（平成16年度4月現在）設置され、他高専からの入学者数の増加は望めない状況である。

従って、専攻科の増員を図るためには、

1) J A B E E 認定などによる専攻科教育の更なる充実、特徴の P R、

2) 社会人にとって魅力ある講義体制

が必要である。

表3.1.7 入学試験の合格者における社会人、他高専出身の数

入学年度	定員	入学者			入学者計
		社会人	他高専	本校	
12	20	1	0	32	33
13	20	0	0	30	30
14	20	0	0	26	26
15	20	0	2	24	26
16	20	0	0	28	28

### 3.1.2 学生の留年・退学状況

表3.1.8~3.1.10には、年度別の学生の進級・卒業状況を示した。また、表3.1.11と表3.1.12には、平成15年度の学科別、クラス別の学生の異動（留年・退学）状況を示した。平成15年度もここ数年と同様に、多くの留年者および退学者を出してしまった。平成14年度と比較すると退学者数はほぼ同数で、留年者は少し減少しているが、他高専と比べるとこの数値は異常に大きい（四国6高専の中で一番多い）。これらの表から、平成15年度について次のことが読み取れる。

- 1) 退学者については、高卒同等資格（修了）を認めていることもあって3年生が多い。
- 2) 平成14年度と比較して、平成15年度の1, 2年生の退学者が増加している。これは、本校の導入教育のあり方を見直す必要性を示唆していると思われる。
- 3) 留年・退学者数に関しては、2年生においてクラス間格差が大きい。また、学科別に見ると、電気工学科3年生の退学者と材料工学科2年生の留年・退学者が多い。この対策としては、クラス運営方法の改善や連携・協力体制の強化が必要と思われる。

平成15年度から低学年教育委員会を設置し、1, 2年生の学習・生活指導に重点をおいた委員会活動を行ってきた。また、オフィスアワー制度の導入や朝のショートホーム（830運動）を実施（開始）した。さらに、年度当初に学年毎のクラス運営の目標を掲げ、目標達成を目指した指導・支援を行った。現段階では、目に見えるほどの成果は得られていないかも知れないが、今後、これらの制度をより充実させ、有効に活用していくことが肝要である。また、長期休業中の学習支援も検討、実施していくことが必要と思われる。

表3.1.8 年度別、留年・退学者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
留年者数	51	56	61	63	41
退学者数	49	46	65	53	52

表3.1.9 年度別、学年別、留年者数

	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
1年生	4	6	9	6	4
2年生	7	24	5	17	11